

令和2年産

仙南稲作情報（第6号）

令和2年7月21日発行

宮城県大河原農業改良普及センター

TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138

※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

○生育は停滞気味、南部平坦の中生品種の出穂期は平年（南部平坦平年※：7月31日）よりも2日程度、前年（南部平坦前年：8月1日）よりも1日程度遅い見込み。

○現在、曇天や降雨が続いているので、病害虫防除は適期を逃さずに実施しましょう。

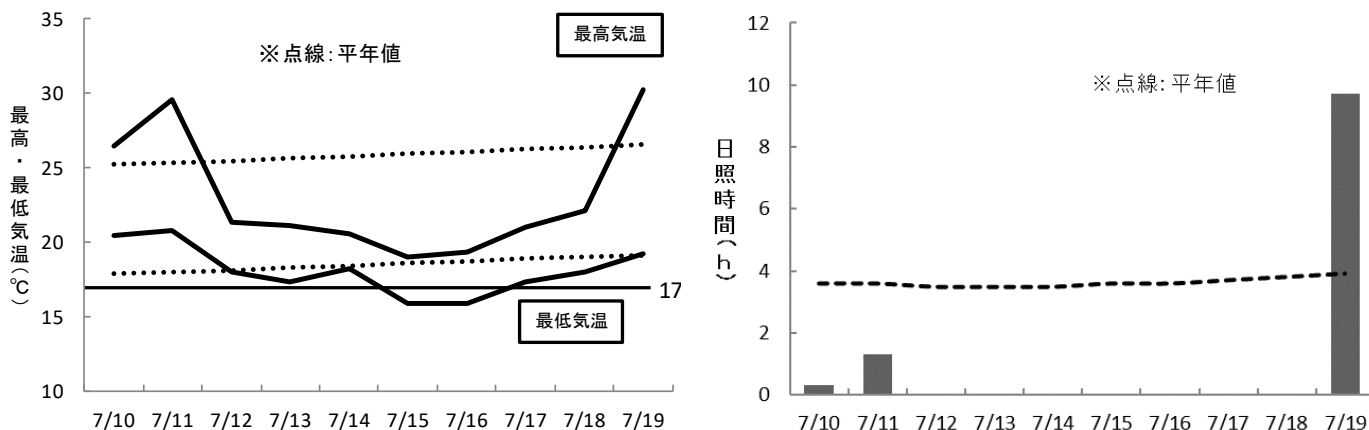
○いもち病の感染に好適な条件が出現しており、管内の一部で感染も確認されていますので、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。

○南部平坦では、まもなく出穂を迎えるので、低温時を除いて、間断かん水をしましょう。

※過去10年間の最大・最小を除いた8か年平均

1 気象経過（丸森アメダス、7月10日～7月19日）

- ・最高気温及び最低気温ともに平年より低く推移し、平均気温も平年よりも低く推移しました（平年差-1.6℃）。
- ・日照時間は平年よりも少なく（平年比31%）、降水量は平年よりも多く経過しました（平年比171%）。



※気象庁（7/16発表）の「北・東・西日本の日照不足と長雨に関する全般気象情報 第2号」では、日照時間が少なく、降水量の多い状態が、今後2週間程度は続く見込みです。

7月21日11時 宮城県の週間天気予報

日付	22 水	23 木	24 金	25 土	26 日	27 月	28 火	
東部 府県天気予報へ	雨のち曇 	曇 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	曇一時雨 	
降水確率(%)	50/50/30/20	40	40	50	50	40	50	
信頼度	/	/	C	C	C	C	C	
仙台	最高(℃)	25	28 (26~30)	26 (22~28)	25 (22~27)	25 (21~27)	26 (23~30)	26 (22~30)
	最低(℃)	20	21 (20~22)	20 (18~22)	20 (18~21)	20 (18~22)	21 (19~23)	21 (19~23)

2 管内の生育状況

【7月20日調査結果】

(水稻生育調査ほ結果)

- 南部平坦の「ひとめぼれ」は、幼穂長が60mmを超え、すでに「減数分裂期」に達していると見られます。生育調査ほの出穂期は、平年並の気象経過で7月31日頃と見込まれます。
- 南部平坦の「つや姫」は、5月上旬植えは、幼穂長が約8mmで、すでに「幼穂形成期」に達しています。5月下旬植えて、幼穂長が約2mmで「幼穂形成期」に達しているとみられます。
- 西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約27mmで、間もなく「減数分裂期」に達するとみられます。
- 山間高冷の「やまのしずく」は、幼穂長が約11mmで、すでに「幼穂形成期」に達しているとみられます。

□ 管内の生育調査結果 (7月20日)

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考して下さい。

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/16	5/12	75.7	103	113	511	119	105	12.9	▲0.1	0.4	40.3	7.9	0.9	63.6	▲96.0	0.8
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/9	5/7	76.0	98	109	534	99	83	12.3	0.2	0.2	34.0	2.6	▲1.1	60.0	▲43.1	▲5.5
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	68.8	94	103	530	106	107	11.6	▲0.5	0.8	43.3	5.2	▲0.3	1.9	▲5.8	1.1
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/5	-	70.5	96	-	406	81	-	12.6	0.5	-	40.3	2.2	-	7.7	0.1	-
南部平坦平均 ひとめぼれ・つや姫				5/13	5/13	72.8	96	107	495	102	91	12.4	▲0.1	0.6	39.5	4.5	▲0.2	33.3	▲36.2	▲1.2
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/17	5/20	60.0	89	104	351	97	106	11.4	▲0.3	0.9	36.3	0.1	▲3.7	27.1	▲29.7	19.7
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/20	67.9	110	115	614	152	101	10.9	0.2	1.4	42.5	0.1	▲2.2	11.7	▲11.8	10.3

注) 南部平坦の平均は、南部平坦の「ひとめぼれ(2か所)」及び「つや姫(か所)」の計4か所の平均となっています。

◆ 平年値は前5か年(H27~R元)の平均値

※ 白石市「ひとめぼれ」(調査4年目)は、H27データを同地区データで補完、角田市「つや姫」(調査2年目)は、H27~29データを同地区データで補完、村田町「つや姫」は、南部平坦「つや姫」の平年値との比較

□ 「だて正夢」調査ほ

- 南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長約16mmで間もなく「減数分裂期」になると見込まれます。
- 西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長約5mmで、すでに「幼穂形成期」に達しており、約1週間程度で「減数分裂期」に達すると見込まれます。
- 茎数は、南部平坦及び西部丘陵ともに有効茎数を確保しており、葉色は39~40ポイントと順調に生育しているとみられます。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/5	5/5	77.6	100	402.6	81	12.2	0.2	39.4	▲2.5	15.9	▲35.6
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/14	74.4	103	426.4	93	10.6	▲0.2	39.7	▲3.9	4.5	0.9

3 今後の管理

【出穂時期の予測】

- 出穂は、ほ場毎に異なります。幼穂長を測定して、出穂までの日数を把握しましょう。
- 出穂前日数は平年の気温からの予測です。
- 幼穂長の測定が困難な場合には、下表を参考にしてください。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1~2	30~40	80~100
葉耳間長(cm)	-	-10	± 0

地帯区分	対象品種	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
南部平坦	ひとめぼれ	5/3~5/19	7/2~7/10	7/12~7/20	7/31~8/6
西部丘陵	ササニシキ	5/7~5/26	7/5~7/16	7/15~7/26	8/3~8/12
山間高冷	やまのしずく	5/7~5/27	7/13~7/21	7/23~7/31	8/12~8/19

※令和2年度 宮城県米づくり推進本部情報 第1号（7/8発行）より

【水管理】

① 低温時の深水管理

- 幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温の影響を受けやすい時期で、**特に減数分裂期は、稲が最も低温*に弱い時期**です。低温時には、**直ちに深水管理**とし、幼穂を低温から保護しましょう。
- 水深は、**幼穂の伸長に合わせ、段階的に深くしましょう。**けい畔の補修がまだの場合は早急に行ってください。

※日平均 20℃以下又は最低気温が 17℃以下になると障害型冷害の危険性が生じます。

深水の目安

幼穂形成期：出穂 25~15 日前
水深 10cm
減数分裂期：出穂 15~10 日前
水深 17~20cm

② 通常の水管理

- 根に十分に水分を与えつつ酸素を供給できるように間断かん水としましょう。**出穂開花期は水を最も必要とする時期**なので、浅水管理とします。
- 収穫作業前の**落水の適期は出穂後25日目頃**ですが、ほ場の保水力（乾きやすさ）や天候による乾湿の状態などを考慮して決定しましょう。
- ◆倒伏が心配されるほ場では、収穫作業前の落水期まで**飽水管理**としましょう。飽水管理とは、田面の足跡に水がなくなったら入水し、土が十分湿ったら落水する、を繰り返す、根の健全化と茎の充実を図る栽培法です。

③ 出穂後の高温時

- 出穂後の 20 日間で最低気温が 23℃以上となる異常高温が連続するような場合、乳白粒などの「白未熟粒」による品質低下が発生するおそれがあります。高温時には、可能な限りの対策を取りましょう。

[対策の例]

掛流しかんがい	• 気温より温度の低い用水を十分に掛け流すことで、水温及び地温を湛水状態より低く抑える方法である。ただし、10a当たり毎分200~300リットル程度の用水が必要となる。
昼間深水・夜間落水管理	• 掛流しかんがいよりも水温及び地温を低下させる効果は小さいが、十分な用水量を確保できない場合でも実行しやすい方法である。 • 午前9~10時頃かん水し、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水する。
飽水管理	• 掛流しかんがい程の効果は得られないが、慣行（常時湛水）よりも夜間の最低地温が低くなるとともに、根の活力維持に効果がある。

【追肥】(田植えの遅いほ場など、これから必要となるほ場のみ)

- ・日照不足や気温が平年よりも低いことなどから、葉色の低下や幼穂の伸長が緩慢なため、イネの生育状況を確認し、追肥の時期と量を判断してください。
- ・なお、中干しが不十分なほ場においては、慎重に判断しましょう。
- ・幼穂長による減数分裂期の判定の仕方や、追肥の要否の判断については、「仙南稲作情報」第4～5号を参照して下さい。
- ・追肥後は、一時的に「いもち病に対する抵抗力が弱まる」ので注意しましょう。
- ・「だて正夢」は、減数分裂期に窒素成分で10a当たり2kg追肥することが基本となっています。

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0～5.5	38～40	出穂25～20日前 1kg/10a	4.5～5.0	35～37	出穂15～10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9～4.2	35～37	出穂25～20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—		—	3.4～3.7	32～34	出穂15～10日前 1～1.5kg/10a
だて正夢	—		—	5.0	37～39	出穂15～10日前 2kg/10a

【病虫害防除】

① いもち病

- ・県病虫害防除所の発生予報(7月10日発行)では葉いもちの発生量は平年並となっています。
- ・しかし、南部平坦地帯では7月11、13～15、19日に「いもち病」の感染に好適・準好適な条件が出現しているほか、これまでの日照不足等により、稲体が軟弱となっていますので、ほ場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努めてください。

(※JAこだわり米等に取り組んでいる場合は、防除の前にJAに相談してください。)

② 斑点米カメムシ類

□県病虫害防除所の発生予報(7月10日発行)では斑点米カメムシの発生量は平年並となっています。

□殺虫剤による薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂前期とその7～10日後の2回防除が基本です。

- ・ただし、ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう(出穂始～穂前期)。

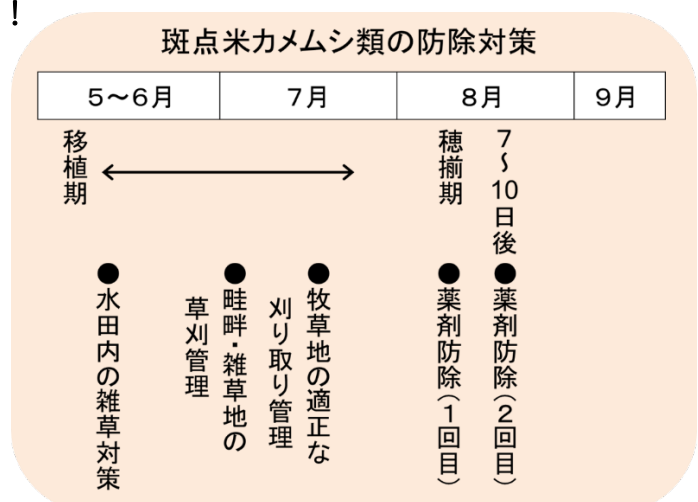
□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。

斑点米カメムシ類の対策を徹底しましょう!

< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ



4 直播栽培における管理のポイント

【7月20日調査結果】 ～現在、幼穂形成期です。穂いもち予防防除を！～

- ・湛水直播栽培の展示ほの生育については、幼穂長約3mmで幼穂形成始期に達しました。
- ・生育ステージを確認して、幼穂形成期までに中干しを終了させましょう。

□ 直播きの生育調査結果(7月20日)

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/9	5/9	59.4	65.5	68.5	112	553.4	92	10.5	▲ 0.4	42.7	1.7	3.4	2.4

① 水管理

- ・中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じであり、原則として間断かん水とします。

② 追肥

- ・実施する場合は、減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgが基本です。
ただし、倒伏等の恐れがある場合は行わないようにしましょう。

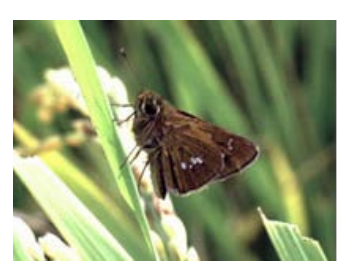
③ 病虫害防除

【いもち病】

- ・いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では7月中旬の葉色が濃いことから、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。



幼虫 ツト (ツトの中に蛹がいます) 成虫
 ☒ イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

□発生予察情報や現場の発生状況をもとに、適期に防除しましょう！

□防除適期：成虫の飛来確認後10～14日（若齢幼虫の発生最盛期）

※おおむね7月下旬から8月上旬です。

○令和2年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）